

4/13早稿

# 広がるオミクロン派生型

新型コロナウイルスの感染者数が増加に転じ、再拡大の兆候が見え始めた。人の移動の増加以外に要因として挙げられているのが、従来のオミクロン株「BA・1」よりも感染力が強いとされる派生型の「BA・2」。国立感染症研究所の推計では全国の新規感染者に占める割合が六割に達したとみられる。ワクチンには一定の効果がありそうだが、新変異株の発生を懸念する声もあり、注意が必要だ。

## ワクチン 海外で効果

### ▽ワクチン

に進み、感染拡大防止に一定の効果を上げていると考えられるものの、まん延防止等重要な措置の解除や年度替わりで「リバウンド」の兆候が見え始めている。三月三十日、厚生労働省はコロナ対策を助言する専門家組織の脇田隆字座長は、会合終了後の記者会見で警戒を呼び掛けた。東京では飲食店での感染率が上昇に転じ、直近一週間は30%を上回る状況だ。ワクチンの追加接種が着実とによる一時的な増加の可能

性もあるが、油断は禁物だ」と話す。特にBA・2への置き換わりで増加しているのであれば、再拡大を起すことも考えられるとの懸念を示す。浜田特任教授は、重点措置の解除により追加接種の勢いが鈍る可能性を指摘。「接種率が六割に達するまでは警戒を緩めるべきでない」とした。

### ▽強い感染力

BA・2の感染力はBA・1の約一・二倍とされ、感染後に他の人にうつるまでの日数も短いとされる。国内では徐々に置き換わりが進んでおり、五月の第一週には九割を超えると予測される。今のところ重症化や死亡リスクの差はないと報告されているが、一部の抗体薬については効果が弱まるとの報告がある。一方、ワクチンによる効果

### オミクロン株の派生型「BA.2」の特徴

感染力	BA.1の約1.3倍
重症化・死亡のリスク	今のところBA.1と差なし
ワクチン	3回目の追加接種でBA.1と同程度の発症予防効果
薬	一部抗体薬で低下

BA.1感染後の再感染 海外で報告例あり、再感染しにくい可能性も

(衛生省の資料を参考に作成)

は一定程度、期待できそうだ。海外では、三回目の追加接種によってBA・1に対する同程度の発症予防効果があるとの研究報告がある。

BA・1にかかった人がBA・2に再感染する例も報告されており、五月の第一週には九割を超えると予測される。今のところ重症化や死亡リスクの差はないと報告されているが、一部の抗体薬については効果が弱まるとの報告がある。一方、ワクチンによる効果

「このほかに専門家が心配するのが、同じ時期に二つのウイルスが流行すると同時感染した人の体内で新たな変異株ができる恐れがある点だ。英語では「」のよくな仕組みで発生したとみられるBA・1とBA・2の遺伝情報が交ざったウイルス「XE」の局的な広がりが確認された。BA・2より一割程度増えやすいとも言われている。

日本への影響について感染研の斎藤篤也感染症危機管理研究センター長は「海外で大量に増えて持ち込まれるとなければそれほど影響はないのではないか」としている。ただ、今後国内でも新たな変異株ができる可能性はあるという。斎藤さんは「社会へのインパクトが増えるかどうかは別の話だが、感染が続いている限り変異が起きる」とは止められない」と話している。

### ▽新たな変異

唆された。